

美術科

■日本画専攻■

【専攻の概要】

日本画専攻は、本校が1880年に日本初の公立の絵画専門学校として開設されて以来営まれ、日本画制作指導と、制作理論研究が行なわれてきました。その伝統的基礎技術をふまえ現代における日本画表現と技法の指導、制作理論の基礎研究を行い、日本画制作を行います。模写・水墨画の授業では、模写制作実習により古典絵画の技法・材料の研究を行ないます。原作の評価と鑑賞の方法を学び評価能力を養います。

【履修の流れ】

基礎課程から専門課程への移行を順次段階を追っていく結果、制作室も自然と学年別になっています。このことは学生同士の人間的なつながりが長いほど、教育には大切なことと確信するからです。又、他に古典絵画の精神やその技法を学べる模写があります。各制作室共、合評会を随時開き担当教員による作品批評と学生間の意見交換を行います。

1年次 後期 鉛筆デッサンと日本画顔料及び岩絵具を用いて着色写生を行います。また線描による模写実習も行います。(日本画A)

2年次 前期 自然の深さを知るため、野外の草花・落ち葉・小さな水辺・足下の自然などを写生し、それをもとに日本画制作します。また色彩による模写実習も行います。(日本画B)

2年次 後期 人体を主たるテーマとし人体デッサンと日本画制作します。(日本画1)

3年次 前/後期 人物・動物・風景を主たるテーマとし日本画制作します。(日本画2)

4年次 前/後期 自由課題で学生各々が考えたテーマで日本画制作をすすめます。(日本画3)

模写 日本画A・Bを終えた学生が入り、古典絵画の模写実技を通して技法や材料の研究を行います。

人物デッサン 集中力、造形力、構成力を自然に養うため、年間を通していつでも人体デッサンできるようになっています。

教科 No.	1A01	授業科目	日本画 A (模写基礎 1)		単位数	週5日 8単位																
担当教員	宮本道夫 日影圭 川嶋渉 ○正垣雅子 ○吉岡佐知				開講学期	後期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	1年次以上																		
<p>【授業目標】 日本画材料の性質を識り、制作を通して基礎技術を習得する。日本画における写生の研究を通してものの見方を深め、制作に生かす。</p> <p>【授業概要】 日本画材料の性質、基礎技術について概説する。対象の写生から日本画制作まで指導する。又、線描による模写実習も指灘する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 石 (写生, 合評) 変化しない対象物の観察と把握。石の素材感, 存在感に留意する。</td> <td>9. 鶏 (着彩)</td> </tr> <tr> <td>2. 石 (材料説明, 着彩, 合評) 薄美濃紙による制作</td> <td>10. 鶏 (合評)</td> </tr> <tr> <td>3. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握</td> <td>11. 冬野菜 (写生) 形状の違うものを組み合わせての画面構成</td> </tr> <tr> <td>4. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握</td> <td>12. 冬野菜 (写生)</td> </tr> <tr> <td>5. 鳥羽僧正「鳥獣戯画」(古典研究, 模写) 墨, 毛筆の線描による模写技法の修得と理解</td> <td>13. 冬野菜 (着彩) 雲肌麻紙による制作</td> </tr> <tr> <td>6. 鶏 (クロッキー) 動く対象物の観察と把握</td> <td>14. 冬野菜 (着彩)</td> </tr> <tr> <td>7. 鶏 (写生)</td> <td>15. 冬野菜 作品展 (20号)</td> </tr> <tr> <td>8. 鶏 (材料説明, 着彩) 雲肌麻紙による制作</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習における作品の評価及び識鍵中の質疑応答, 討論を総合して評価する。</p>							1. 石 (写生, 合評) 変化しない対象物の観察と把握。石の素材感, 存在感に留意する。	9. 鶏 (着彩)	2. 石 (材料説明, 着彩, 合評) 薄美濃紙による制作	10. 鶏 (合評)	3. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握	11. 冬野菜 (写生) 形状の違うものを組み合わせての画面構成	4. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握	12. 冬野菜 (写生)	5. 鳥羽僧正「鳥獣戯画」(古典研究, 模写) 墨, 毛筆の線描による模写技法の修得と理解	13. 冬野菜 (着彩) 雲肌麻紙による制作	6. 鶏 (クロッキー) 動く対象物の観察と把握	14. 冬野菜 (着彩)	7. 鶏 (写生)	15. 冬野菜 作品展 (20号)	8. 鶏 (材料説明, 着彩) 雲肌麻紙による制作	
1. 石 (写生, 合評) 変化しない対象物の観察と把握。石の素材感, 存在感に留意する。	9. 鶏 (着彩)																					
2. 石 (材料説明, 着彩, 合評) 薄美濃紙による制作	10. 鶏 (合評)																					
3. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握	11. 冬野菜 (写生) 形状の違うものを組み合わせての画面構成																					
4. 柿 (写生, 合評) 変化してゆく対象物の観察と把握	12. 冬野菜 (写生)																					
5. 鳥羽僧正「鳥獣戯画」(古典研究, 模写) 墨, 毛筆の線描による模写技法の修得と理解	13. 冬野菜 (着彩) 雲肌麻紙による制作																					
6. 鶏 (クロッキー) 動く対象物の観察と把握	14. 冬野菜 (着彩)																					
7. 鶏 (写生)	15. 冬野菜 作品展 (20号)																					
8. 鶏 (材料説明, 着彩) 雲肌麻紙による制作																						

教科 No.	1A02	授業科目	日本画 B (模写基礎 2)		単位数	週5日 8単位																
担当教員	宮本道夫 川嶋渉 小島徳朗 ○正垣雅子 ○吉岡佐知				開講学期	前期																
履修条件	日本画 A の単位修得者		履修学年・専攻等	2年次																		
<p>【授業目標】 野外での写生をもとに日本画制作を行い、写生に関してより深く理解し、日本画画材の特性に触れる。時間や天候等の変化の中で、対象と深く向き合うことにより、自分の感性の発動を知り、その表現を探る。</p> <p>【授業概要】 野外での写生と日本画制作を通して日本画の基礎技術について指導する。又、着彩による模写実習も指導する。特に写生を重視し B 全程度の大きさのものを2週間かけて行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 野外での地面の写生, 課題の説明。(鉛筆クレパス使用)</td> <td>9. 野外での写生。適時, 個々の進度に応じた指導</td> </tr> <tr> <td>2. " 適時, 個々に写生について指導</td> <td>10. "</td> </tr> <tr> <td>3. 野外での地面の写生, 合評会</td> <td>11. " 構想, 小下絵の指導および制作準備</td> </tr> <tr> <td>4. 地面の本画制作 (50号程度), 課題の説明及び制作準備</td> <td>12. 野外での写生と本画制作 (50号程度), 写生と制作過程に関する合評会</td> </tr> <tr> <td>5. " 適時, 個々に制作について指導</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. "</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. 地面の本画制作合評会, 次課題の説明</td> <td>15. 野外での写生と本画制作 (50号程度) 合評会</td> </tr> <tr> <td>8. 着彩による模写実習。着彩技法の説明と手本による模写実習・採点</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習における写生と作品の評価及び講義中の質疑応答, 討論を総合して評価する。</p>							1. 野外での地面の写生, 課題の説明。(鉛筆クレパス使用)	9. 野外での写生。適時, 個々の進度に応じた指導	2. " 適時, 個々に写生について指導	10. "	3. 野外での地面の写生, 合評会	11. " 構想, 小下絵の指導および制作準備	4. 地面の本画制作 (50号程度), 課題の説明及び制作準備	12. 野外での写生と本画制作 (50号程度), 写生と制作過程に関する合評会	5. " 適時, 個々に制作について指導	13. "	6. "	14. "	7. 地面の本画制作合評会, 次課題の説明	15. 野外での写生と本画制作 (50号程度) 合評会	8. 着彩による模写実習。着彩技法の説明と手本による模写実習・採点	
1. 野外での地面の写生, 課題の説明。(鉛筆クレパス使用)	9. 野外での写生。適時, 個々の進度に応じた指導																					
2. " 適時, 個々に写生について指導	10. "																					
3. 野外での地面の写生, 合評会	11. " 構想, 小下絵の指導および制作準備																					
4. 地面の本画制作 (50号程度), 課題の説明及び制作準備	12. 野外での写生と本画制作 (50号程度), 写生と制作過程に関する合評会																					
5. " 適時, 個々に制作について指導	13. "																					
6. "	14. "																					
7. 地面の本画制作合評会, 次課題の説明	15. 野外での写生と本画制作 (50号程度) 合評会																					
8. 着彩による模写実習。着彩技法の説明と手本による模写実習・採点																						

教科 No.	1A03	授業科目	日本画 1 (模写基礎 3)	単位数	週4日 6単位																								
担当教員	宮本道夫 西田真人 小島徳朗 ○池田知嘉子 ○井手本貴子 ○正垣雅子			開講学期	後期																								
履修条件	日本画 B の単位修得者		履修学年・専攻等	2年次																									
<p>【授業目標】 人体をテーマとして、デッサン、日本画制作等を行い、人体構造の把握とデッサン力を養うと共に、本画制作により画材の特性にふれ、技法研究につなげる。</p> <p>【授業概要】 人体をテーマにデッサン、日本画制作を指導する。モデルを使用した人体デッサン（前半は40分ポーズ、後半は20分ポーズをくり返す）を期間中通して行い、本画制作も並行して指導。模写基礎として箔に関する実習を行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人体デッサンに関する説明、実技指導</td> <td>9. 人体デッサン</td> <td>模写基礎、箔に関する実習</td> </tr> <tr> <td>2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> <td>10. 人体デッサン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. "</td> <td>11. 本画（作品展、80号程度）構想、小下絵に関する指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 本画制作（50号程度）のための課題説明</td> <td>12. 本画制作準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> <td>13. 本画制作</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 本画制作</td> <td>14. "</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 本画制作、合評会</td> <td>作品展（80号程度）</td> </tr> <tr> <td>8. 本画制作、合評会。次課題の説明</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習における作品、デッサンの評価及び講義中の質疑応答、討論を総合して評価する。</p> <p>【履修上の注意】 複数の課題を並行して行うので、遅れないよう計画的に履修する事。</p>						1. 人体デッサンに関する説明、実技指導	9. 人体デッサン	模写基礎、箔に関する実習	2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 人体デッサン		3. "	11. 本画（作品展、80号程度）構想、小下絵に関する指導		4. 本画制作（50号程度）のための課題説明	12. 本画制作準備		5. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	13. 本画制作		6. 本画制作	14. "		7. "	15. 本画制作、合評会	作品展（80号程度）	8. 本画制作、合評会。次課題の説明		
1. 人体デッサンに関する説明、実技指導	9. 人体デッサン	模写基礎、箔に関する実習																											
2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 人体デッサン																												
3. "	11. 本画（作品展、80号程度）構想、小下絵に関する指導																												
4. 本画制作（50号程度）のための課題説明	12. 本画制作準備																												
5. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	13. 本画制作																												
6. 本画制作	14. "																												
7. "	15. 本画制作、合評会	作品展（80号程度）																											
8. 本画制作、合評会。次課題の説明																													

教科 No.	1A04	授業科目	日本画 2	単位数	週4日 6単位																
担当教員	小池一範 日影圭 ○井手本貴子			開講学期	前期																
履修条件	日本画 1 の単位修得者		履修学年・専攻等	3年次																	
<p>【授業目標】 人体をテーマとし、デッサン、日本画制作を行う。正確にとらえるだけでなく、造形要素（線、色、空間、素材等）との関わりを意識したデッサンを行い、本画制作への造形思考の展開を計る。</p> <p>【授業概要】 人体をテーマにデッサン、日本画制作を指導する。期間中モデルを使用しデッサンを行い、並行して本画制作を指導、特に考案、下絵のチェックを重視しデッサンから作画までの造形思考の展開について解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人体デッサンに関する説明、実技指導</td> <td>9. 本画制作</td> </tr> <tr> <td>2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> <td>10. 本画制作、合評会</td> </tr> <tr> <td>3. 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明</td> <td>11. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> </tr> <tr> <td>4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> <td>12. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> </tr> <tr> <td>5. 本画制作</td> <td>13. 本画制作</td> </tr> <tr> <td>6. 本画制作、合評会。次課題の説明</td> <td>14. 本画制作</td> </tr> <tr> <td>7. // 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> <td>15. 本画制作、合評会</td> </tr> <tr> <td>8. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習における作品の評価及び講義中の質疑応答、討論を総合して評価する。</p>						1. 人体デッサンに関する説明、実技指導	9. 本画制作	2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 本画制作、合評会	3. 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明	11. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	12. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	5. 本画制作	13. 本画制作	6. 本画制作、合評会。次課題の説明	14. 本画制作	7. // 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	15. 本画制作、合評会	8. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	
1. 人体デッサンに関する説明、実技指導	9. 本画制作																				
2. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 本画制作、合評会																				
3. 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明	11. 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。																				
4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	12. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備																				
5. 本画制作	13. 本画制作																				
6. 本画制作、合評会。次課題の説明	14. 本画制作																				
7. // 人体デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	15. 本画制作、合評会																				
8. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備																					

教科 No.	1A05	授業科目	日本画 2	単位数	週4日 6単位																
担当教員	浅野均 小池一範 ○吉岡佐知			開講学期	後期																
履修条件	日本画 1 の単位修得者		履修学年・専攻等	3年次																	
<p>【授業目標】 人体、動・植物、風景のデッサンを基に日本画制作を行う。人体表現からの展開を思慮し制作を行ない、表現の可能性を探索する。</p> <p>【授業概要】 人体、動・植物、風景をテーマにデッサン、日本画制作を指導する。日本画表現の可能性や人体表現からの展開について解説する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 与えられた課題に関する説明、実技指導</td> <td>9. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> </tr> <tr> <td>2. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> <td>10. 本画制作</td> </tr> <tr> <td>3. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明</td> <td>11. 本画制作、合評会。次課題の説明</td> </tr> <tr> <td>4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> <td>12. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> </tr> <tr> <td>5. 本画制作</td> <td>13. デッサンの合評会 本画制作（作品展 80号～100号程度）のための課題説明</td> </tr> <tr> <td>6. 本画制作、合評会。次課題の説明</td> <td>14. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備</td> </tr> <tr> <td>7. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。</td> <td>15. 本画制作、合評会。作品展（80号～100号）</td> </tr> <tr> <td>8. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 演習における作品の評価及び講義中の質疑応答、討論を総合して評価する。</p>						1. 与えられた課題に関する説明、実技指導	9. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	2. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 本画制作	3. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明	11. 本画制作、合評会。次課題の説明	4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	12. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	5. 本画制作	13. デッサンの合評会 本画制作（作品展 80号～100号程度）のための課題説明	6. 本画制作、合評会。次課題の説明	14. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	7. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	15. 本画制作、合評会。作品展（80号～100号）	8. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明	
1. 与えられた課題に関する説明、実技指導	9. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備																				
2. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	10. 本画制作																				
3. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明	11. 本画制作、合評会。次課題の説明																				
4. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備	12. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。																				
5. 本画制作	13. デッサンの合評会 本画制作（作品展 80号～100号程度）のための課題説明																				
6. 本画制作、合評会。次課題の説明	14. 本画の構想、小下絵に関する指導および制作準備																				
7. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。	15. 本画制作、合評会。作品展（80号～100号）																				
8. デッサンの合評会 本画制作（80号～100号程度）のための課題説明																					

教科 No.	1A06	授業科目	日本画 3	単位数	週4日 6単位
担当教員	浅野均 綾田勝義 西田真人			開講学期	前期
履修条件	日本画 2 の単位修得者		履修学年・専攻等	4 年次	
【授業目標】 各自の研究テーマを設定し、それに応じたデッサンや日本画制作の技法、素材等を研究する。					
【授業概要】 各々のテーマに応じたデッサン、日本画制作を指導する。表現と素材について解説する。					
【授業内容】					
1. 各々のテーマに応じたデッサン、日本画制作を指導する。表現と素材について解説する。 9. 本画（100号～150号）の構想、小下絵に関する指導および制作準備					
2. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 10. 本画制作					
3. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 11. 本画制作、合評会。 次課題の説明					
4. 本画（100号～150号）の構想、小下絵に関する指導および制作準備 12. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。					
5. 本画制作 13. 本画（100号～150号）の構想、小下絵に関する指導および制作準備					
6. 本画制作、合評会。 次課題の説明 14. 本画制作					
7. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 15. 本画制作、合評会					
8. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。					
【評価方法】 演習における作品の評価及び講義中の質疑応答、討論を総合して評価する。					

教科 No.	1A07	授業科目	日本画 3	単位数	週4日 6単位
担当教員	西田真人 綾田勝義 ○池田知嘉子			開講学期	後期
履修条件	日本画 2 の単位修得者		履修学年・専攻等	4 年次	
【授業目標】 各自の研究テーマを設定し、デッサン・日本画制作を行う。又、日本画における社会性及び現代性について考察する。					
【授業概要】 各々のテーマに応じたデッサン・日本画制作を指導する。日本画における社会性及び現代性について解説する。					
【授業内容】					
1. 課題に関する説明、実技指導 9. 本画（100号～150号）の構想、小下絵に関する指導および制作準備					
2. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 10. 本画制作					
3. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 11. 本画制作、合評会。 卒業制作（150号程度）の説明					
4. 本画（100号～150号）の構想、小下絵に関する指導および制作準備 12. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。					
5. 本画制作 13. 本画（150号程度）の構想、小下絵に関する指導および制作準備					
6. 本画制作、合評会。 次課題の説明 14. 本画制作					
7. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。 15. 本画制作、合評会。 卒業制作作品展（150号程度）					
8. デッサン 適時、個々にデッサンチェックを行う。					
【評価方法】 演習における作品の評価及び講義中の質疑応答、討論を総合して評価する。					

教科 No.	1A08	授業科目	模写・水墨画	単位数	週4日 6単位
担当教員	宮本道夫 ○正垣雅子			開講学期	前期
履修条件	日本画 1 の単位修得者		履修学年・専攻等	3 年次以上	
【授業目標】 古典絵画の模写及び水墨画の技法・材料の制作研究を行なう。原作の批評と鑑賞の方法を学び評価能力を培い、模写作品の制作能力を高める。					
【授業概要】 古典絵画の模写実技指導と、制作に必要な知識の取得をする。作品のもつ情報を読み取ることに必要な伝統技法や材料の知識、加えて作品の時代背景や作者について研究指導を行なう。原作の制作目的の違いや素材の違いによる多様な模写制作を経験する。					
【授業内容】 1. 基礎導入 材料の知識を得る 2. 課題による模写制作 3. 自由課題による模写制作 4. 合評					
【評価方法】 実習における積極的な努力、知識欲、および作品の評価を総合して評価する。					
【履修上の注意】 展覧会へ行き、古典作品の積極的鑑賞を勧める。					

教科 No.	1A09	授業科目	模写・水墨画	単位数	週4日 6単位
担当教員	宮本道夫 ○正垣雅子			開講学期	後期
履修条件	日本画 B の単位修得者		履修学年・専攻等	3 年次以上	
【授業目標】 古典絵画の模写及び水墨画の技法・材料の制作研究を行なう。原作の批評と鑑賞の方法を学び評価能力を培い、模写作品の制作能力を高める。					
【授業概要】 古典絵画の模写実技指導と、制作に必要な知識の取得をする。作品のもつ情報を読み取ることに必要な伝統技法や材料の知識、加えて作品の時代背景や作者について研究指導を行なう。原作の制作目的の違いや素材の違いによる多様な模写制作を経験する。					
【授業内容】 1. 基礎導入 材料の知識を得る 2. 課題による模写制作 3. 自由課題による模写制作 4. 合評 5. 作品展					
【評価方法】 実習における積極的な努力、知識欲、および作品の評価を総合して評価する。					
【履修上の注意】 展覧会へ行き、古典作品の積極的鑑賞を勧める。					

■ 油画専攻 ■

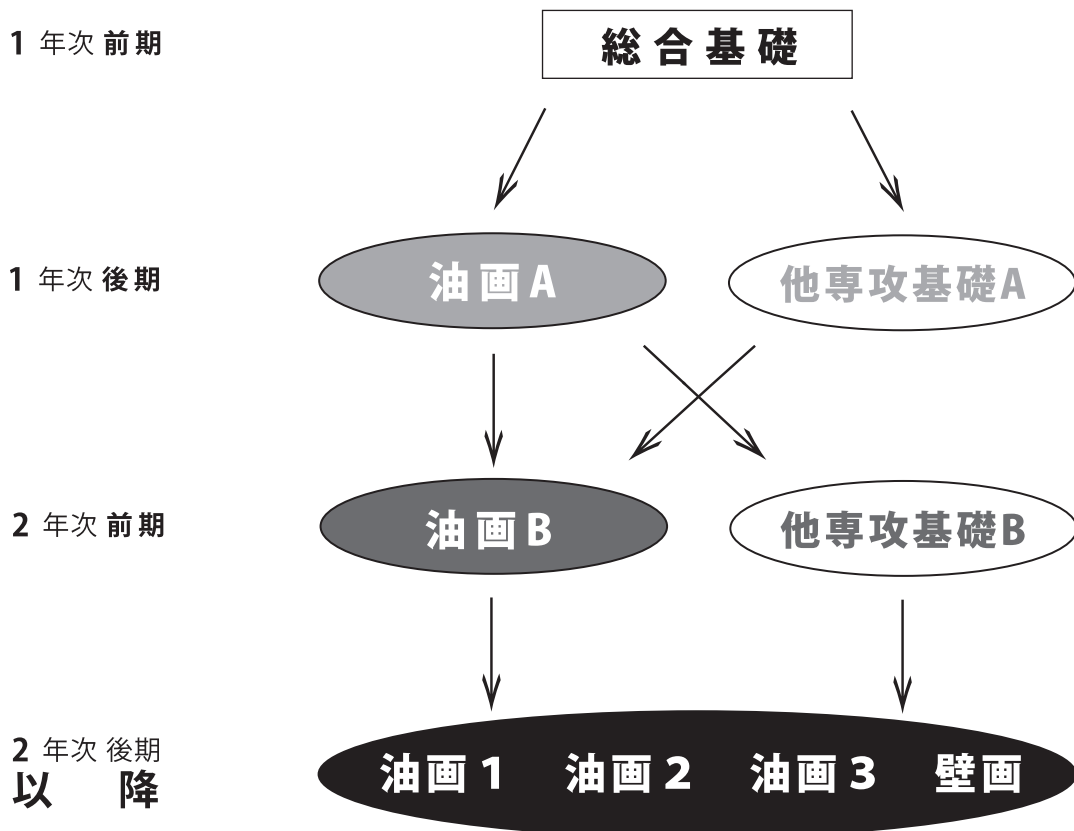
【専攻の概要】

価値の多様化がめざましい今日において表現者のはたす社会的役割は大きい。そのために美術家は表現に至る明確な動機と個性豊かな技法とを探究してゆく自立心を備えていなければならない。そのような自立した表現者の育成を目指し、油画専攻では1年次後期と2年次前期の全教員による基礎授業と、2年次後期、3、4年次の個別の指導を中心とした授業によって、各教員独自の研究成果を生かした指導を行っている。指導を通じてそれぞれの学生の個性を伸ばし、多様な表現力と今日における制作の意義を認識させることで、各自を十分な見識と技術とを身につけた表現者として育成することを目標とする。

各教室において油彩の基礎実習とともに、油彩をはじめ、水彩、アクリル、フレスコなど今日の多様な表現に応じた様々な素材による絵画の研究と制作を行う。

【履修の流れ】

- 油画専攻を志す学生は、総合基礎修了後、美術科基礎へすすみ、「油画A」または「油画B」を履修する必要がある。そして美術科基礎修了後、自分の希望する油画専攻の各教室へと自由に選択してすすむ事ができる。
- 油画「1」、「2」、「3」、「壁画」は順を追って選択してゆくものではなく、それぞれ内容の異なった教室であり、2年次後期から4年次までの混合教室となっている。
- 専攻内の教室の登録は半期ごとに行い、自由に移動することができる。



教科 No.	1B01	授業科目	油画 A			単位数	週5日 8単位
担当教員	鶴田憲次 Simon Fitzgerald 石原友明 赤松玉女 渡辺信明 法貴信也 金田勝一 ○村瀬裕子 ○山本理恵子					開講学期	後期
履修条件	総合基礎実技の単位修得者			履修学年・専攻等	1年次以上		
【授業目標】 「見る事から絵画へ」 ものを見る事、つまり観察を表現の出発点として制作していく。絵画という形式を通して、世界（対象）を観察し、自身の手で描写する事で、自分（主体）の独自の表現と出会う可能性を探る。							
【授業概要】 各課題の中で、三種の実習プログラムを課す。Workshop 様々な画材を使った実習を通し、基本となる技術への理解を深めさせるプログラム。Drawing 完成された絵画作品に至る前の思考／試行を繰り返す過程としてのプログラム。Painting 各個人の多様な技法に基づく絵画表現を試みさせるプログラム。							
【授業内容】							
1.カリキュラム説明 課題説明			9.		ペインティング1		
2.「風景」	ワークショップ		10.		合評会		
3.	ドローイング		11.		ペインティング2		
4.	ペインティング		12.		ワークショップ		
5.	合評会		13.「静物」		ドローイング		
6.「人物」	ドローイング1		14.		ペインティング1		
7.	ドローイング2		15.	(制作展準備期間に続く)			
8.	ペインティング1						
【評価方法】 合評会・作品展に出品された作品の内容と、普段の出席状況も考慮して総合的に評価する。							

教科 No.	1B02	授業科目	油画 B			単位数	週5日 8単位
担当教員	鶴田憲次 Simon Fitzgerald 石原友明 赤松玉女 渡辺信明 法貴信也 金田勝一 ○村瀬裕子 ○山本理恵子					開講学期	前期
履修条件	総合基礎実技の単位修得者			履修学年・専攻等	1年次以上		
【授業目標】 「独自の絵画へ」 過去から現代までの絵画表現から、独自の世界を表現するための方法を学び、制作していく。過去の豊かな絵画表現から、オリジナルな表現の可能性を探る。最後に教室展で作品発表する事を目指す。							
【授業概要】 各課題の中で、三種の実習プログラムを課す。Workshop 様々な画材を使った実習を通し、基本となる技術への理解を深めさせるプログラム。Drawing 完成された絵画作品に至る前の思考／試行を繰り返す過程としてのプログラム。Painting 各個人の多様な技法に基づく絵画表現を試みさせるプログラム。							
【授業内容】							
1.カリキュラム説明 課題説明	ワークショップ		9.「コンポジション」		ドローイング		
2.「素材」	ワークショップ1		10.		ペインティング		
3.	ワークショップ2		11.		ペインティング 合評会		
4.	ペインティング 合評会		12.「表現」		ワークショップ		
5.「色彩」	ワークショップ		13.		ドローイング		
6.	ドローイング		14.		ペインティング		
7.	ペインティング		15.		教室展 合評会		
8.	ペインティング 合評会						
【評価方法】 合評会・教室展に出品された作品の内容と、普段の出席状況も考慮して総合的に評価する。							

教科 No.	1B03	授業科目	油画 1 「対象< object >」をはじめりとして	単位数	週4日 6単位																
担当教員	鶴田憲次 渡辺信明 ○中岡真珠美			開講学期	前期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p>【授業目標】 「絵画」とは何か? 「今」という時代に「描く」事の意味を広く問い、自己との関係を探り、独自の表現の獲得を目指す。テーマを探り、技法を研究し、何をどの様に描くのかを明確にし、今日的な絵画の可能性を追求する。</p> <p>【授業概要】 自己のテーマを元に研究計画書を作成し、個人指導(チュートリアル)を行う。合評会を半期に3回開催し、そこで見いだされた問題点について個人指導を行い、制作の展開をはかる。人物モデルが常に配置されており、自由に制作に取り入れることができる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入: 個人研究計画書1を作成</td> <td>9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導</td> <td>10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導</td> </tr> <tr> <td>3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導</td> <td>11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導</td> <td>13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> <td>14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 教室展</td> </tr> <tr> <td>8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 チュートリアルを重視し、合評会・制作展に出品された作品により評価を定める。また、提出ファイルの内容も考慮される。</p>						1. 導入: 個人研究計画書1を作成	9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導	10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導	3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導	11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	4. "	12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導	13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出	7. "	15. 教室展	8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	
1. 導入: 個人研究計画書1を作成	9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導																				
2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導	10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導																				
3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導	11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
4. "	12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導	13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出																				
7. "	15. 教室展																				
8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導																					

教科 No.	1B04	授業科目	油画 1 「対象< object >」をはじめりとして	単位数	週4日 6単位																
担当教員	鶴田憲次 渡辺信明 ○中岡真珠美			開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれかであること) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p>【授業目標】 「絵画」とは何か? 「今」という時代に「描く」事の意味を広く問い、自己との関係を探り、独自の表現の獲得を目指す。テーマを探り、技法を研究し、何をどの様に描くのかを明確にし、今日的な絵画の可能性を追求する。</p> <p>【授業概要】 自己のテーマを元に研究計画書を作成し、個人指導(チュートリアル)を行う。合評会を半期に3回開催し、そこで見いだされた問題点について個人指導を行い、制作の展開をはかる。人物モデルが常に配置されており、自由に制作に取り入れることができる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 導入: 個人研究計画書1を作成</td> <td>9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導</td> <td>10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導</td> </tr> <tr> <td>3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導</td> <td>11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導</td> <td>13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導</td> </tr> <tr> <td>6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> <td>14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出</td> </tr> <tr> <td>7. "</td> <td>15. 作品展</td> </tr> <tr> <td>8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 チュートリアルを重視し、合評会・制作展に出品された作品により評価を定める。また、提出ファイルの内容も考慮される。</p>						1. 導入: 個人研究計画書1を作成	9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導	10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導	3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導	11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	4. "	12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導	13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導	6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出	7. "	15. 作品展	8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	
1. 導入: 個人研究計画書1を作成	9. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導																				
2. チュートリアル1: 個人研究計画書1に基づく個人指導	10. 合評回2. チュートリアル3, 個人指導																				
3. 個人研究計画書に基づいた中間制作指導	11. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
4. "	12. セミナー2, 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
5. 合評回1, チュートリアル2, 個人指導	13. 個人研究計画書3に基づいた中間制作指導																				
6. 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導	14. 合評会3, チュートリアル4: 総合的に半期を振り返る個人指導, 作品ファイル提出																				
7. "	15. 作品展																				
8. セミナー1, 個人研究計画書2に基づいた中間制作指導																					

教科 No.	1B05	授業科目	油画 2 「主題< subject >」をはじめりとして	単位数	週4日 6単位
担当教員	Simon Fitzgerald 法貴信也 ○高木紗恵子			開講学期	前期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】					
自身のリアリティーと好奇心を起点に、個人の表現が絵画を通して個を越えた広い世界と接する方法の探求を目標とする。絵画の自律性を求めるよりも、自らの主張、「主題< subject >」に適った新たな技法を探ることとなる。					
【授業概要】					
個人の実感、リアリティー（コンテンツ）を契機に、「主題< subject >」が明確な、幅と奥行きのある絵画を各自が積極的に問い、そうした立脚点を鮮明にするための適切な技法、技術を模索する。また、アーティストとして社会で活動するために重要なツール（ポートフォリオ、Web サイトなど）についても研究する。					
【授業内容】					
1. 導入：個人研究計画書ステージ 1 を作成		9. 個人研究計画書ステージ 2 に基づいた中間制作指導			
2. チュートリアル< tutorial >（個人指導）：個別の課題を適宜指示		10. 合評会 2, 個人研究計画書ステージ 3 作成。チュートリアル：個別の課題を適宜指示			
3. 個人研究計画書ステージ 1 に基づいた中間制作指導		11. 個人研究計画書ステージ 3 に基づいた中間制作指導			
4. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求		12. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求			
5. 個人研究計画書ステージ 1 に基づいた中間制作指導		13. 個人研究計画書ステージ 3 に基づいた中間制作指導			
6. 合評会 1, 個人研究計画書ステージ 2 作成。チュートリアル：個別の課題を適宜指示		14. 合評会 3, チュートリアル：半期を総合的に振り返る			
7. 個人研究計画書ステージ 2 に基づいた中間制作指導		15. ポートフォリオ提出 『油画 2』展など			
8. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求					
【評価方法】					
チュートリアルを重視し、グループ・チュートリアルへの参加、積極的な制作姿勢、合評会・制作展などへの提出作品の質から総合的に評価する。なお、ポートフォリオの内容も考慮される。					

教科 No.	1B06	授業科目	油画 2 「主題< subject >」をはじめりとして	単位数	週4日 6単位
担当教員	Simon Fitzgerald 法貴信也 ○高木紗恵子			開講学期	後期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】					
自身のリアリティーと好奇心を起点に、個人の表現が絵画を通して個を越えた広い世界と接する方法の探求を目標とする。絵画の自律性を求めるよりも、自らの主張、「主題< subject >」に適った新たな技法を探ることとなる。					
【授業概要】					
個人の実感、リアリティー（コンテンツ）を契機に、「主題< subject >」が明確な、幅と奥行きのある絵画を各自が積極的に問い、そうした立脚点を鮮明にするための適切な技法、技術を模索する。また、アーティストとして社会で活動するために重要なツール（ポートフォリオ、Web サイトなど）についても研究する。					
【授業内容】					
1. 導入：個人研究計画書ステージ 1 を作成		9. 個人研究計画書ステージ 2 に基づいた中間制作指導			
2. チュートリアル< tutorial >（個人指導）：個別の課題を適宜指示		10. 合評会 2, 個人研究計画書ステージ 3 作成。チュートリアル：個別の課題を適宜指示			
3. 個人研究計画書ステージ 1 に基づいた中間制作指導		11. 個人研究計画書ステージ 3 に基づいた中間制作指導			
4. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求		12. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求			
5. 個人研究計画書ステージ 1 に基づいた中間制作指導		13. 個人研究計画書ステージ 3 に基づいた中間制作指導			
6. 合評会 1, 個人研究計画書ステージ 2 作成。チュートリアル：個別の課題を適宜指示		14. 合評会 3, チュートリアル：半期を総合的に振り返る			
7. 個人研究計画書ステージ 2 に基づいた中間制作指導		15. ポートフォリオ提出 作品展など			
8. グループ・チュートリアル：ディスカッションによる多様な視点の探求					
【評価方法】					
チュートリアルを重視し、グループ・チュートリアルへの参加、積極的な制作姿勢、合評会・制作展などへの提出作品の質から総合的に評価する。なお、ポートフォリオの内容も考慮される。					

教科 No.	1B07	授業科目	油画3 「もうひとつの絵画< post painting >」にむかって	単位数	週4日 6単位																
担当教員	石原友明 金田勝一 ○岡村寛生			開講学期	前期																
履修条件	美術科基礎16単位(うち8単位以上は「油画A・B」いずれか)修得者。		履修学年・専攻等	2年次以上																	
<p>【授業目標】 平面表現の可能性を拡張し、絵画概念を更新する「もうひとつの絵画」を探究してゆく。 映像、立体、身体、音響など、様々な領域との交通を通じて、ハイブリッドな実験制作をおこない絵画表現の多様性を開拓する。</p> <p>【授業概要】 各自のテーマ、制作内容を研究計画書として提出、個人指導をおこなう。それに基づいて制作研究した作品群を展示し、合評、検討をおこなう。それをもとに、研究計画を作り直し、また次の合評に向かってゆく。創造と批評のサイクルの中で個別のテーマと技法を深め、制作を展開してゆく。半期に3回の合評を予定。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> <td>10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> </tr> <tr> <td>3. 作品制作指導とセミナー</td> <td>11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. 作品制作指導とセミナー</td> </tr> <tr> <td>5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> <td>15. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> </tr> <tr> <td>8. 作品制作指導とセミナー</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 提出作品の量的、質的な評価に加えて、セミナーへの参加、制作への積極性などをみて総合的に評価する。</p>						1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作	9. "	2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	3. 作品制作指導とセミナー	11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	4. "	12. 作品制作指導とセミナー	5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	13. "	6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作	14. "	7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	15. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	8. 作品制作指導とセミナー	
1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作	9. "																				
2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。																				
3. 作品制作指導とセミナー	11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。																				
4. "	12. 作品制作指導とセミナー																				
5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	13. "																				
6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作	14. "																				
7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	15. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。																				
8. 作品制作指導とセミナー																					

教科 No.	1B08	授業科目	油画3 「もうひとつの絵画< post painting >」にむかって	単位数	週4日 6単位																
担当教員	石原友明 金田勝一 ○岡村寛生			開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎16単位(うち8単位以上は「油画A・B」いずれか)修得者。		履修学年・専攻等	2年次以上																	
<p>【授業目標】 平面表現の可能性を拡張し、絵画概念を更新する「もうひとつの絵画」を探究してゆく。 映像、立体、身体、音響など、様々な領域との交通を通じて、ハイブリッドな実験制作をおこない絵画表現の多様性を開拓する。</p> <p>【授業概要】 各自のテーマ、制作内容を研究計画書として提出、個人指導をおこなう。それに基づいて制作研究した作品群を展示し、合評、検討をおこなう。それをもとに、研究計画を作り直し、また次の合評に向かってゆく。創造と批評のサイクルの中で個別のテーマと技法を深め、制作を展開してゆく。半期に3回の合評を予定。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作</td> <td>9. "</td> </tr> <tr> <td>2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> <td>10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> </tr> <tr> <td>3. 作品制作指導とセミナー</td> <td>11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> </tr> <tr> <td>4. "</td> <td>12. 作品制作指導とセミナー</td> </tr> <tr> <td>5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> <td>13. "</td> </tr> <tr> <td>6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作</td> <td>14. "</td> </tr> <tr> <td>7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。</td> <td>15. 作品展に制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。</td> </tr> <tr> <td>8. 作品制作指導とセミナー</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 提出作品の量的、質的な評価に加えて、セミナーへの参加、制作への積極性などをみて総合的に評価する。</p>						1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作	9. "	2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	3. 作品制作指導とセミナー	11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	4. "	12. 作品制作指導とセミナー	5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	13. "	6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作	14. "	7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	15. 作品展に制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	8. 作品制作指導とセミナー	
1. 概要を伝える。研究計画書の作成、ドローイングの制作	9. "																				
2. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	10. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。																				
3. 作品制作指導とセミナー	11. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。																				
4. "	12. 作品制作指導とセミナー																				
5. 制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。	13. "																				
6. 前節の制作をもとに、新たな研究計画書の作成、ドローイングの制作	14. "																				
7. 研究計画書、ドローイング、ポートフォリオに基づいて個人指導を行う。	15. 作品展に制作された複数の作品を展示し、合評を通じて制作研究を検討する。																				
8. 作品制作指導とセミナー																					

教科 No.	1B09	授業科目	壁画 「素材・空間」からはじまる表現	単位数	週4日 6単位																
担当教員	赤松玉女 ○小笠美華			開講学期	前期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p>【授業目標】 フレスコ技法のほか、各自の内容にふさわしい画材や技法を研究しながら、自律的な絵画平面についてだけではなく、三次元空間を意識した「新しい壁画」を探究する。最終週に開催する教室展を目標に制作研究を進める。</p> <p>【授業概要】 壁画制作が初めての学生のためにはフレスコ技法のワークショップを行う。研究計画書に記された技法、画材、作品のテーマをもとに、個人指導を行う。フレスコ以外の技法を用いた、タブロー、ドローイング制作も指導する。各期 3 回の合評会を開催する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. カリキュラム説明 研究計画書提出</td> <td>9. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>2. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>10. 合評会 2</td> </tr> <tr> <td>3. 中間報告 (ドローイングを中心に)</td> <td>11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出</td> </tr> <tr> <td>4. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>12. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>5. 合評会 1</td> <td>13. 中間報告 (教室展に向けて)</td> </tr> <tr> <td>6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出</td> <td>14. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>7. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>15. フレスコ教室展 合評会 3</td> </tr> <tr> <td>8. 中間報告 (ドローイングを中心に)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 作品の内容を重視し、学内外での活動 (展覧会の開催など) も考慮しながら、研究目標達成度を総合的に評価する。</p>						1. カリキュラム説明 研究計画書提出	9. 計画書に基づく制作、指導	2. 計画書に基づく制作、指導	10. 合評会 2	3. 中間報告 (ドローイングを中心に)	11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	4. 計画書に基づく制作、指導	12. 計画書に基づく制作、指導	5. 合評会 1	13. 中間報告 (教室展に向けて)	6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	14. 計画書に基づく制作、指導	7. 計画書に基づく制作、指導	15. フレスコ教室展 合評会 3	8. 中間報告 (ドローイングを中心に)	
1. カリキュラム説明 研究計画書提出	9. 計画書に基づく制作、指導																				
2. 計画書に基づく制作、指導	10. 合評会 2																				
3. 中間報告 (ドローイングを中心に)	11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出																				
4. 計画書に基づく制作、指導	12. 計画書に基づく制作、指導																				
5. 合評会 1	13. 中間報告 (教室展に向けて)																				
6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	14. 計画書に基づく制作、指導																				
7. 計画書に基づく制作、指導	15. フレスコ教室展 合評会 3																				
8. 中間報告 (ドローイングを中心に)																					

教科 No.	1B10	授業科目	壁画 「素材・空間」からはじまる表現	単位数	週4日 6単位																
担当教員	赤松玉女 ○小笠美華			開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「油画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
<p>【授業目標】 フレスコ技法のほか、各自の内容にふさわしい画材や技法を研究しながら、自律的な絵画平面についてだけではなく、三次元空間を意識した「新しい壁画」を探究する。後期は作品展を目標に制作研究を進める。</p> <p>【授業概要】 壁画制作が初めての学生のためにはフレスコ技法のワークショップを行う。研究計画書に記された技法、画材、作品のテーマをもとに、個人指導を行う。フレスコ以外の技法を用いた、タブロー、ドローイング制作も指導する。各期 3 回の合評会を開催する。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. カリキュラム説明 研究計画書提出</td> <td>9. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>2. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>10. 合評会 2</td> </tr> <tr> <td>3. 中間報告 (ドローイングを中心に)</td> <td>11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出</td> </tr> <tr> <td>4. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>12. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>5. 合評会 1</td> <td>13. 中間報告 (作品展に向けて)</td> </tr> <tr> <td>6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出</td> <td>14. 計画書に基づく制作、指導</td> </tr> <tr> <td>7. 計画書に基づく制作、指導</td> <td>15. 作品展 合評会 3</td> </tr> <tr> <td>8. 中間報告 (ドローイングを中心に)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 作品の内容を重視し、学内外での活動 (展覧会の開催など) も考慮しながら、研究目標達成度を総合的に評価する。</p>						1. カリキュラム説明 研究計画書提出	9. 計画書に基づく制作、指導	2. 計画書に基づく制作、指導	10. 合評会 2	3. 中間報告 (ドローイングを中心に)	11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	4. 計画書に基づく制作、指導	12. 計画書に基づく制作、指導	5. 合評会 1	13. 中間報告 (作品展に向けて)	6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	14. 計画書に基づく制作、指導	7. 計画書に基づく制作、指導	15. 作品展 合評会 3	8. 中間報告 (ドローイングを中心に)	
1. カリキュラム説明 研究計画書提出	9. 計画書に基づく制作、指導																				
2. 計画書に基づく制作、指導	10. 合評会 2																				
3. 中間報告 (ドローイングを中心に)	11. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出																				
4. 計画書に基づく制作、指導	12. 計画書に基づく制作、指導																				
5. 合評会 1	13. 中間報告 (作品展に向けて)																				
6. 合評会の批評をふまえた新たな計画書の提出	14. 計画書に基づく制作、指導																				
7. 計画書に基づく制作、指導	15. 作品展 合評会 3																				
8. 中間報告 (ドローイングを中心に)																					

■彫刻専攻■

【専攻の概要】

彫刻の基礎実習と共に、土・木・石・金属・合成樹脂等を用いて、空間理論の研究、造形思考の展開と表現を学びます。彫刻専攻は美術科基礎として「彫刻A」、「彫刻B」、さらに専攻実技としての「彫刻1」、「彫刻2」から成っています。それらの授業の目標については以下ようになります。

○「彫刻A」

観察という行為から実素材を使った作品に至る過程を体験、習得する。

○「彫刻B」

立体的な表現に関する発想とその展開にあたっての着眼点を学ぶ。

素材の特性を学び、それに関わる加工技術や取り扱いについての知識を習得する。

○「彫刻1」

彫刻の造形原理を学ぶことにより、その展開と表現ができることを目指す。

○「彫刻2」

自己とそれを取りまく現実世界との関係性から制作の糸口を探り、その展開と表現ができることを目指す。

【履修の流れ】

彫刻専攻を志す学生は、総合基礎後、美術科基礎に進み、「彫刻A」「彫刻B」の両方、またはいずれか一方を履修する必要があります。そして、美術科基礎後、自分の希望する彫刻専攻の各授業へと自由に選択して進むことができます。「彫刻1」、「彫刻2」は順を追って選択していくものではなく、それぞれ内容の異なった授業であり、2年次後期から4年次までの混合授業となっています。専攻内の授業の登録は半期ごとに行い自由に移動することができます。ただし、卒業時まで、「彫刻1」、「彫刻2」の両方を履修しなければなりません。評価は、3年次迄は各授業の担当教員が行います。4年次の評価と卒業制作は、全教員そろって行います。

年次別履修表

	前 期	後 期
1年次		彫刻A（または他専攻基礎A）
2年次	彫刻B（または他専攻基礎B）	彫刻1，彫刻2の内から選択
3年次	彫刻1，彫刻2の内から選択	彫刻1，彫刻2の内から選択
4年次	彫刻1，彫刻2の内から選択	彫刻1，彫刻2の内から選択，卒業制作

※「彫刻3」は休講とする。

教科 No.	1C01	授業科目	彫刻 A	単位数	週5日 8単位																
担当教員	全専任教員 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	後期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	1年次以上																	
<p>【授業目標】 観察という行為から実素材を使った作品に至る過程を体験、習得する。 歴史的な彫刻表現を体験する</p> <p>【授業概要】 ○モデルを出発点として鋳造にいたる制作過程を体験させ、原型と複製の関係や素材が置き換わることで生まれる彫刻の見え方の違いを意識させる。 ○自然木から形を彫り出す過程を体験させ、素材・形・空間の関係を理解させる。 ○陶土による造形から焼成にいたる過程で体験する形態と質の変化を理解させる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. モデルの観察・塑像実習</td> <td>9. 木彫実習</td> </tr> <tr> <td>2. 塑像実習</td> <td>10. 木彫実習</td> </tr> <tr> <td>3. 石膏取り、蠟型原型の制作</td> <td>11. 作品提出、合評</td> </tr> <tr> <td>4. 鋳型作り、焼成</td> <td>12. モチーフの観察・陶彫実習</td> </tr> <tr> <td>5. 鋳造、仕上げ</td> <td>13. 陶彫実習</td> </tr> <tr> <td>6. 作品提出、合評</td> <td>14. 陶彫実習</td> </tr> <tr> <td>7. 自然木の観察・木彫実習</td> <td>15. 作品提出、合評</td> </tr> <tr> <td>8. 木彫実習</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 提出作品とディスカッションにより評価する。</p>						1. モデルの観察・塑像実習	9. 木彫実習	2. 塑像実習	10. 木彫実習	3. 石膏取り、蠟型原型の制作	11. 作品提出、合評	4. 鋳型作り、焼成	12. モチーフの観察・陶彫実習	5. 鋳造、仕上げ	13. 陶彫実習	6. 作品提出、合評	14. 陶彫実習	7. 自然木の観察・木彫実習	15. 作品提出、合評	8. 木彫実習	
1. モデルの観察・塑像実習	9. 木彫実習																				
2. 塑像実習	10. 木彫実習																				
3. 石膏取り、蠟型原型の制作	11. 作品提出、合評																				
4. 鋳型作り、焼成	12. モチーフの観察・陶彫実習																				
5. 鋳造、仕上げ	13. 陶彫実習																				
6. 作品提出、合評	14. 陶彫実習																				
7. 自然木の観察・木彫実習	15. 作品提出、合評																				
8. 木彫実習																					

教科 No.	1C02	授業科目	彫刻 B	単位数	週5日 8単位																
担当教員	全専任教員 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	前期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	2年次以上																	
<p>【授業目標】 立体的な表現に関する発想とその展開にあたっての着眼点を学ぶ。 素材の特性を学び、それに関わる加工技術や取り扱いについての知識を習得する。</p> <p>【授業概要】 立体と平面の違い、空間の概念、作品制作、提示の方法、素材と構造など、立体に関わる基本的な概念について、さまざまな角度からの演習と制作を指導し、より自由な発想を育ませる。あわせて、金属、樹脂、木、石を素材とする制作に必要な加工技術と取り扱いの知識を習得させる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. ゼミ1</td> <td>9. 材料実習 (樹脂)</td> </tr> <tr> <td>2. 材料実習 (金属)</td> <td>10. ゼミ4</td> </tr> <tr> <td>3. 材料実習 (金属)</td> <td>11. 材料実習 (木)</td> </tr> <tr> <td>4. ゼミ2</td> <td>12. 材料実習 (木)</td> </tr> <tr> <td>5. 材料実習 (石)</td> <td>13. 自主制作</td> </tr> <tr> <td>6. 材料実習 (石)</td> <td>14. 自主制作</td> </tr> <tr> <td>7. ゼミ3</td> <td>15. 自主制作作品提出、合評</td> </tr> <tr> <td>8. 材料実習 (樹脂)</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 提出作品とディスカッションにより評価する。</p> <p>【履修上の注意】 材料実習 (木) は、授業計画の進行状況によっては短縮または省略する場合がある。</p>						1. ゼミ1	9. 材料実習 (樹脂)	2. 材料実習 (金属)	10. ゼミ4	3. 材料実習 (金属)	11. 材料実習 (木)	4. ゼミ2	12. 材料実習 (木)	5. 材料実習 (石)	13. 自主制作	6. 材料実習 (石)	14. 自主制作	7. ゼミ3	15. 自主制作作品提出、合評	8. 材料実習 (樹脂)	
1. ゼミ1	9. 材料実習 (樹脂)																				
2. 材料実習 (金属)	10. ゼミ4																				
3. 材料実習 (金属)	11. 材料実習 (木)																				
4. ゼミ2	12. 材料実習 (木)																				
5. 材料実習 (石)	13. 自主制作																				
6. 材料実習 (石)	14. 自主制作																				
7. ゼミ3	15. 自主制作作品提出、合評																				
8. 材料実習 (樹脂)																					

教科 No.	1C03	授業科目	彫刻 1	単位数	週4日 6単位
担当教員	中ハシクシゲ 金氏徹平 中原浩大 松井紫朗 小山田徹 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	前期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「彫刻 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】 彫刻の造形原理を学ぶことにより、その展開と表現ができることを目指す。					
【授業概要】 色、かたち、素材、及びそれらを使って生まれる空間や時間など、彫刻に関わる造形の諸問題に着目し、それらを起点とする表現の授業を行う。学生各自による研究テーマの設定、研究計画について学生とともに検討を加え、これをもとに自主的な制作と成果を促す。					
【授業内容】					
1. 学生各自による研究テーマの設定、研究計画書の作成					
2. 研究計画書に基づく個別ディスカッション					
3. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
4. "					
5. "					
6. "					
7. "					
8. "					
9. 中間合評					
10. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
11. "					
12. "					
13. "					
14. "					
15. 作品提出、合評					
【評価方法】 作品提出による研究成果の評価のほか、研究計画書の提出、ゼミや合評への参加等により総合的な評価を行う。ただし、4 年次の評価は彫刻専攻の全教官により行う。					

教科 No.	1C04	授業科目	彫刻 1	単位数	週4日 6単位
担当教員	中ハシクシゲ 金氏徹平 中原浩大 松井紫朗 小山田徹 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	後期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「彫刻 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】 彫刻の造形原理を学ぶことにより、その展開と表現ができることを目指す。					
【授業概要】 色、かたち、素材、及びそれらを使って生まれる空間や時間など、彫刻に関わる造形の諸問題に着目し、それらを起点とする表現の授業を行う。学生各自による研究テーマの設定、研究計画について学生とともに検討を加え、これをもとに自主的な制作と成果を促す。					
【授業内容】					
1. 学生各自による研究テーマの設定、研究計画書の作成					
2. 研究計画書に基づく個別ディスカッション					
3. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
4. "					
5. "					
6. "					
7. "					
8. "					
9. 中間合評					
10. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
11. "					
12. "					
13. "					
14. "					
15. 作品提出、合評					
【評価方法】 作品提出による研究成果の評価のほか、研究計画書の提出、ゼミや合評への参加等により総合的な評価を行う。ただし、4 年次の評価は彫刻専攻の全教官により行う。					

教科 No.	1C05	授業科目	彫刻 2	単位数	週4日 6単位
担当教員	松井紫朗 小山田徹 中原浩大 中ハシクシゲ 金氏徹平 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	前期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「彫刻 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】 自己とそれをとりまく現実世界との関係性から制作の糸口を探り、その展開と表現ができることを目指す。					
【授業概要】 思想や社会を含む現実世界の様々な事象に対し、独自の観点を持って考察することによって展開し、構築される表現についての授業を行う。学生各自による研究テーマの設定、研究計画について学生とともに検討を加え、これをもとに自主的な制作と成果を促す。					
【授業内容】					
1. 学生各自による研究テーマの設定、研究計画書の作成					
2. 研究計画書に基づく個別ディスカッション					
3. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
4. "					
5. "					
6. "					
7. "					
8. "					
9. 中間合評					
10. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
11. "					
12. "					
13. "					
14. "					
15. 作品提出、合評					
【評価方法】 作品提出による研究成果の評価のほか、研究計画書の提出、ゼミや合評への参加等により総合的な評価を行う。ただし、4 年次の評価は彫刻専攻の全教官により行う。					

教科 No.	1C06	授業科目	彫刻 2	単位数	週4日 6単位
担当教員	松井紫朗 小山田徹 中原浩大 中ハシクシゲ 金氏徹平 ○中村潤 ○藤沢信輔 ○前川紘士			開講学期	後期
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「彫刻 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上	
【授業目標】 自己とそれをとりまく現実世界との関係性から制作の糸口を探り、その展開と表現ができることを目指す。					
【授業概要】 思想や社会を含む現実世界の様々な事象に対し、独自の観点を持って考察することによって展開し、構築される表現についての授業を行う。学生各自による研究テーマの設定、研究計画について学生とともに検討を加え、これをもとに自主的な制作と成果を促す。					
【授業内容】					
1. 学生各自による研究テーマの設定、研究計画書の作成					
2. 研究計画書に基づく個別ディスカッション					
3. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
4. "					
5. "					
6. "					
7. "					
8. "					
9. 中間合評					
10. 作品制作指導、ゼミ形式のミーティング					
11. "					
12. "					
13. "					
14. "					
15. 作品提出、合評					
【評価方法】 作品提出による研究成果の評価のほか、研究計画書の提出、ゼミや合評への参加等により総合的な評価を行う。ただし、4 年次の評価は彫刻専攻の全教官により行う。					

教科 No.	1C07	授業科目	彫刻 3	単位数	週4日 6単位
担当教員	(休講)			開講学期	前期
履修条件			履修学年・専攻等	2年次以上	
<p>今年度休講</p>					

教科 No.	1C08	授業科目	彫刻 3	単位数	週4日 6単位
担当教員	(休講)			開講学期	後期
履修条件			履修学年・専攻等	2年次以上	
<p>今年度休講</p>					

■版画専攻■

【専攻の概要】

現代の社会は、さまざまな印刷物に溢れています。人々は、世界中にはり巡らされたネットワークを通じて、自由に情報をやりとりできるようになりました。複製技術の出現は、人々の生活を根本的に変えてしまったと言ってもよいでしょう。そのような時代にあって、美術はどのような役割を果たすべきなのでしょう？

版画専攻では「版画」を、複数性と間接性の美術ととらえ、その独自性を最大限に活用した、現代の版画表現を追求します。

4つの基本的な版画技法である、銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンを土台に、写真、デジタル処理を含む、様々な複製メディアを活用した制作・研究を行います。

【履修の流れ】

■ 1年次後期， 2年次前期

版画専攻を受講する人は、版画A，版画B，のいずれか，又は両方を履修する必要があります。

●版画A・版画Bは、版画を専門に学ぶ為に必要な、基礎的技術と知識を修得する為、以下の4つの項目によって構成されたプログラムです。

- 1， 基礎造形 版画制作を前提とした，描写，構成，素材体験など。
- 2， 映像 アナログ・モノクロのD P E基礎およびデジタル画像処理基礎。
- 3， 版画論 スライド等を通して現代版画の状況を知る。
- 4， 版画実習 基本4版種の基礎実習。版画Aでは，木版画とシルクスクリーンの基礎を，版画Bでは，銅版画とリトグラフの基礎を学びます。"

■ 2年次後期

基本4版種の中から1つを選択し，その工房に所属します。工房別の指導のもと，制作を行います。5週間に1回のペースで開かれる合同合評会に出品し，版画の技術・知見を向上させます。

■ 3年次前期

工房別に自由制作を行います。5週間に1回のペースで開かれる合同合評会に出品し，自己の表現の向上を目指します。適宜，ステップアップの為の技法演習，特別講義を受講します。

■ 3年次後期

工房別に自由制作を行います。5週間に1回のペースで開かれる合同合評会に出品し，自己の表現の向上を目指します。適宜，ステップアップの為の技法演習，特別講義を受講します。

■ 4年次前期

工房別自由制作を行い，合同合評会に出品します。文書購読を主としたゼミを受講します。卒業生全員共同でポートフォリオを制作します。

■ 4年次後期

工房別自由制作を行い，合同合評会に出品します。文書購読を主としたゼミを受講します。卒業生全員共同でポートフォリオを制作します。卒業制作を行い卒業制作展に出品します。

教科 No.	1D01	授業科目	版画 A	単位数	週5日 8単位																
担当教員	木村秀樹 出原司 大西伸明 ○長尾浩幸 ○濱田弘明 ○田中栄子 ○岸中延年 ○寺田就子 ○高橋耕平			開講学期	後期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	1年次																	
【授業目標】 版画を専門に学ぶための基礎的技術と知識を習得する。																					
【授業概要】 ドローイング、イメージ構成などよりなる「基礎造形」、現代版画の状況を論じる、「現代版画論」、アナログ、モノクロ写真の撮影から現像、焼き付けまで、およびデジタル画像処理の基礎よりなる「映像」、「木版画基礎」、「シルクスクリーン基礎」を順次開講し教授する。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>9.シルクスクリーン基礎</td> </tr> <tr> <td>2. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>10.シルクスクリーン基礎</td> </tr> <tr> <td>3. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>11.木版画基礎</td> </tr> <tr> <td>4. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>12.木版画基礎</td> </tr> <tr> <td>5. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>13.木版画基礎</td> </tr> <tr> <td>6.シルクスクリーン基礎</td> <td>14.木版画基礎</td> </tr> <tr> <td>7.シルクスクリーン基礎</td> <td>15.木版画基礎</td> </tr> <tr> <td>8.シルクスクリーン基礎</td> <td></td> </tr> </table>						1. 基礎造形, 映像, 現代版画論	9.シルクスクリーン基礎	2. 基礎造形, 映像, 現代版画論	10.シルクスクリーン基礎	3. 基礎造形, 映像, 現代版画論	11.木版画基礎	4. 基礎造形, 映像, 現代版画論	12.木版画基礎	5. 基礎造形, 映像, 現代版画論	13.木版画基礎	6.シルクスクリーン基礎	14.木版画基礎	7.シルクスクリーン基礎	15.木版画基礎	8.シルクスクリーン基礎	
1. 基礎造形, 映像, 現代版画論	9.シルクスクリーン基礎																				
2. 基礎造形, 映像, 現代版画論	10.シルクスクリーン基礎																				
3. 基礎造形, 映像, 現代版画論	11.木版画基礎																				
4. 基礎造形, 映像, 現代版画論	12.木版画基礎																				
5. 基礎造形, 映像, 現代版画論	13.木版画基礎																				
6.シルクスクリーン基礎	14.木版画基礎																				
7.シルクスクリーン基礎	15.木版画基礎																				
8.シルクスクリーン基礎																					
【評価方法】 出席, 提出作品による。																					
【履修上の注意】 定員 10 名 (定員を超える場合は抽選)																					
【教科書】 プリントを配布する。																					

教科 No.	1D02	授業科目	版画 B	単位数	週5日 8単位																
担当教員	木村秀樹 出原司 大西伸明 ○長尾浩幸 ○濱田弘明 ○田中栄子 ○岸中延年 ○寺田就子 ○高橋耕平			開講学期	前期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	2年次																	
【授業目標】 版画を専門に学ぶための基礎的技術と知識を習得する。																					
【授業概要】 ドローイング、イメージ構成などよりなる「基礎造形」、現代版画の状況を論じる、「現代版画論」、デジタル画像処理の基礎よりなる「映像」、「銅版画基礎」、「リトグラフ基礎」を順次開講し教授する。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>9.銅版画基礎</td> </tr> <tr> <td>2. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>10.銅版画基礎</td> </tr> <tr> <td>3. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>11.リトグラフ基礎</td> </tr> <tr> <td>4. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>12.リトグラフ基礎</td> </tr> <tr> <td>5. 基礎造形, 映像, 現代版画論</td> <td>13.リトグラフ基礎</td> </tr> <tr> <td>6.銅版画基礎</td> <td>14.リトグラフ基礎</td> </tr> <tr> <td>7.銅版画基礎</td> <td>15.リトグラフ基礎</td> </tr> <tr> <td>8.銅版画基礎</td> <td></td> </tr> </table>						1. 基礎造形, 映像, 現代版画論	9.銅版画基礎	2. 基礎造形, 映像, 現代版画論	10.銅版画基礎	3. 基礎造形, 映像, 現代版画論	11.リトグラフ基礎	4. 基礎造形, 映像, 現代版画論	12.リトグラフ基礎	5. 基礎造形, 映像, 現代版画論	13.リトグラフ基礎	6.銅版画基礎	14.リトグラフ基礎	7.銅版画基礎	15.リトグラフ基礎	8.銅版画基礎	
1. 基礎造形, 映像, 現代版画論	9.銅版画基礎																				
2. 基礎造形, 映像, 現代版画論	10.銅版画基礎																				
3. 基礎造形, 映像, 現代版画論	11.リトグラフ基礎																				
4. 基礎造形, 映像, 現代版画論	12.リトグラフ基礎																				
5. 基礎造形, 映像, 現代版画論	13.リトグラフ基礎																				
6.銅版画基礎	14.リトグラフ基礎																				
7.銅版画基礎	15.リトグラフ基礎																				
8.銅版画基礎																					
【評価方法】 出席, 提出作品による。																					
【履修上の注意】 定員 10 名 (定員を超える場合は抽選)																					
【教科書】 プリントを配布する。																					

教科 No.	1D03	授業科目	版画制作	単位数	週4日 6単位																
担当教員	木村秀樹 出原司 大西伸明 ○長尾浩幸 ○濱田弘明 ○田中栄子 ○岸中延年 ○寺田就子 ○高橋耕平 ○竹中健司			開講学期	前期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「版画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
【授業目標】 版画に関する多様な技術・知見をより高度かつ強固なものとしつつ、現代の美術状況の中で、独自の版画表現を構築することを目標とする。																					
【授業概要】 リトグラフ、銅版画、シルクスクリーン、木版画、の基本 4 版種から選択、あるいは併用による制作、及び、写真、デジタルプロセス等の応用による制作を、段階的に指導、教授する。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない</td> <td>9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> </tr> <tr> <td>2. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>10. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>3. 個別のチュートリアル、技法研究</td> <td>11. 個別のチュートリアル、技法研究</td> </tr> <tr> <td>4. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>12. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> <td>13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> </tr> <tr> <td>6. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>14. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>7. 合同合評に出品する。</td> <td>15. 版画集制作 合評に出品する。</td> </tr> <tr> <td>8. 卒業修了者による版画集制作</td> <td></td> </tr> </table>						1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない	9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	2. 卒業修了者による版画集制作	10. 卒業修了者による版画集制作	3. 個別のチュートリアル、技法研究	11. 個別のチュートリアル、技法研究	4. 卒業修了者による版画集制作	12. 卒業修了者による版画集制作	5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	6. 卒業修了者による版画集制作	14. 卒業修了者による版画集制作	7. 合同合評に出品する。	15. 版画集制作 合評に出品する。	8. 卒業修了者による版画集制作	
1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない	9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう																				
2. 卒業修了者による版画集制作	10. 卒業修了者による版画集制作																				
3. 個別のチュートリアル、技法研究	11. 個別のチュートリアル、技法研究																				
4. 卒業修了者による版画集制作	12. 卒業修了者による版画集制作																				
5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう																				
6. 卒業修了者による版画集制作	14. 卒業修了者による版画集制作																				
7. 合同合評に出品する。	15. 版画集制作 合評に出品する。																				
8. 卒業修了者による版画集制作																					
【評価方法】 提出作品、出席、合評会やゼミなどにおける発表、対外的な活動等を総合して評価する。																					
【履修上の注意】 関西現代版画史等を参考に、近代版画の流れを理解しておくこと。																					
【教科書】 関西現代版画史（美学出版）・版画事典（東京書籍）																					

教科 No.	1D04	授業科目	版画制作	単位数	週4日 6単位																
担当教員	木村秀樹 出原 司 大西伸明 ○長尾浩幸 ○田中栄子 ○岸中延年 ○寺田就子 ○高橋耕平 ○竹中健司			開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎 16 単位 (うち 8 単位以上は「版画 A・B」いずれか) 修得者。		履修学年・専攻等	2 年次以上																	
【授業目標】 版画に関する多様な技術・知見をより高度かつ強固なものとしつつ、現代の美術状況の中で、独自の版画表現を構築することを目標とする。																					
【授業概要】 リトグラフ、銅版画、シルクスクリーン、木版画、の基本 4 版種から選択、あるいは併用による制作、及び、写真、デジタルプロセス等の応用による制作を、段階的に指導、教授する。																					
【授業内容】																					
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない</td> <td>9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> </tr> <tr> <td>2. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>10. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>3. 個別のチュートリアル、技法研究</td> <td>11. 個別のチュートリアル、技法研究</td> </tr> <tr> <td>4. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>12. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> <td>13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう</td> </tr> <tr> <td>6. 卒業修了者による版画集制作</td> <td>14. 卒業修了者による版画集制作</td> </tr> <tr> <td>7. 合同合評に出品する。</td> <td>15. 版画集制作 合評に出品する。</td> </tr> <tr> <td>8. 卒業修了者による版画集制作</td> <td></td> </tr> </table>						1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない	9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	2. 卒業修了者による版画集制作	10. 卒業修了者による版画集制作	3. 個別のチュートリアル、技法研究	11. 個別のチュートリアル、技法研究	4. 卒業修了者による版画集制作	12. 卒業修了者による版画集制作	5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	6. 卒業修了者による版画集制作	14. 卒業修了者による版画集制作	7. 合同合評に出品する。	15. 版画集制作 合評に出品する。	8. 卒業修了者による版画集制作	
1. 研究・制作計画を作成する。以下、欄内は特記事項であり、通常の制作研究（個別に、または工房ごとに内容は異なる）は特に記載しない	9. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう																				
2. 卒業修了者による版画集制作	10. 卒業修了者による版画集制作																				
3. 個別のチュートリアル、技法研究	11. 個別のチュートリアル、技法研究																				
4. 卒業修了者による版画集制作	12. 卒業修了者による版画集制作																				
5. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう	13. 3・4 回生を対象に現代版画ゼミ形式のディスカッション、プレゼンテーションなどについての実習をおこなう																				
6. 卒業修了者による版画集制作	14. 卒業修了者による版画集制作																				
7. 合同合評に出品する。	15. 版画集制作 合評に出品する。																				
8. 卒業修了者による版画集制作																					
【評価方法】 提出作品、出席、合評会やゼミなどにおける発表、対外的な活動等を総合して評価する。																					
【履修上の注意】 関西現代版画史等を参考に、近代版画の流れを理解しておくこと。																					
【教科書】 関西現代版画史（美学出版）・版画事典（東京書籍）																					

■ 構想設計専攻 ■

【専攻の概要】

構想設計は、人間の創造的活動とそれが生起する場である人間的経験一般を根本的に捉え直し、従来の芸術が関わってこなかった今日的な諸問題・諸領域に多様な手法でアプローチします。また、芸術や人間の活動に対する観念や制度を批判的に問い直し、異なる領域間に交通の回路を切り開くことを通じて、社会の既存の価値や関係を再配置する新たな現場を形成することを旨とした研究・制作を行います。

技術演習としては、写真、デジタルビデオ、コンピューターグラフィクス、アニメーション、インタラクティブ・メディア、プログラミング、インスタレーション、工作機械などを行います。また技術演習と並行してセミナー、ワークショップ、理論演習や、学外の研究機関・地域と連携した研究・フィールドワークなどを行うことで、総合的な構想力と社会に対する表現技術を養います。

以上の事柄を基本にして映像・メディア・構想の三つのゼミが開かれます。これらのゼミが相互に関係することで専門領域にとわわれることのない多面的な活動が行われます。

【履修の流れ】 基礎・構想設計演習・インディペンデント・プロジェクトの三段階からなる。

● Phase1 【1年次後期～2年次前期】

基礎A：「イメージ・身体・言語」

「自己」を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求する。手さぐりの中から生成する新たな自己との出会いを探る。

基礎B：「人間・時間・空間」

人・時間・空間とは「世界」を認識するために人類文化が形成した基本的概念である。現代におけるこれらの意味をあらためて問い直すと同時に、それらに関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新たに世界の再構築を試みる。

● Phase2 【2年次後期～3年次前期】

Phase2 では基礎過程での経験を継続的に発展させると共に、個々の学生の発想・興味・資質に応じた自由な表現方法をもとに、多様なメディアを用いた実験的な作品の制作を行なう。

● Phase3 【3年次後期～4年次前期】

Phase 3 では、これまでの探求を継続する個人プロジェクトを計画する。4年時での制作・研究の実施にあたっては、担当教官に加えて専攻内の全教官による幅広い指導を得ることで、社会の中に自己の場を形成する技術を学んでゆく。

教科 No.	1E01	授業科目	構想設計 A	単位数	週5日 8単位																
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○椎原保 ○長谷川潔 ○人長果月 ○前田剛志			開講学期	後期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	1年次																	
<p>【授業目標】 多様な発想方法と対話の中から生まれる柔軟な思考、さらに他者の表現を社会・歴史の文脈と関連させる批評性と展開力を身につけるために、理論と実技演習が融合した教育を行う。</p> <p>【授業概要】 「イメージ・身体・言語」 「自己」を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求する。手さぐりの中から生成する新たな自己との出会いを探る。また、講読ゼミ・理論演習・フィールドワーク・ワークショップ・技術演習などを行う。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. コンセプチュアルな思考による表現の基礎演習指導。</td> <td>9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> <td>10. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>3. コンピュータを用いたメディア表現の基礎演習指導。</td> <td>11. 写真表現の基礎としてカメラ操作と撮影の基本的な技術演習。</td> </tr> <tr> <td>4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> <td>12. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> <td>13. テーマに沿って撮影をおこない、写真による表現の可能性への展開。</td> </tr> <tr> <td>6. 設備機械等の使用のための基本的技術演習。</td> <td>14. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>7. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> <td>15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>8. 素材のテーマによる制作計画指導。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への参加、制作、合評を通して総合的に評価する。</p>						1. コンセプチュアルな思考による表現の基礎演習指導。	9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	10. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	3. コンピュータを用いたメディア表現の基礎演習指導。	11. 写真表現の基礎としてカメラ操作と撮影の基本的な技術演習。	4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	12. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	13. テーマに沿って撮影をおこない、写真による表現の可能性への展開。	6. 設備機械等の使用のための基本的技術演習。	14. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	7. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	8. 素材のテーマによる制作計画指導。	
1. コンセプチュアルな思考による表現の基礎演習指導。	9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	10. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。																				
3. コンピュータを用いたメディア表現の基礎演習指導。	11. 写真表現の基礎としてカメラ操作と撮影の基本的な技術演習。																				
4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	12. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	13. テーマに沿って撮影をおこない、写真による表現の可能性への展開。																				
6. 設備機械等の使用のための基本的技術演習。	14. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
7. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。																				
8. 素材のテーマによる制作計画指導。																					

教科 No.	1E02	授業科目	構想設計 B	単位数	週5日 8単位																
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○椎原保 ○長谷川潔 ○人長果月 ○前田剛志			開講学期	前期																
履修条件	総合基礎実技の単位修得者		履修学年・専攻等	2年次																	
<p>【授業目標】 多様な発想方法と対話の中から生まれる柔軟な思考、さらに他者の表現を社会・歴史の文脈と関連させる批評性と展開力を身につけるために、理論と実技演習が融合した教育を行う。</p> <p>【授業概要】 「人間・時間・空間」 人・時・空間とは「世界」を認識するために人類文化が形成した基本的概念である。現代におけるこれらの意味をあらためて問い直すと同時に、それらに関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新たに世界の再構築を試みる。</p> <p>【授業内容】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. コンピュータによるメディア表現の基本的技術の習得。</td> <td>9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> <td>10. ビデオカメラの撮影指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>3. プログラミングによるインタラクティブな表現への展開。</td> <td>11. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> <td>12. テーマに沿った絵コンテを作成し、撮影、制作をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> <td>13. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>6. 設備、機械等の使用のための基本的技術演習。</td> <td>14. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。</td> </tr> <tr> <td>7. 多様な素材、物質へのアプローチのための基礎演習。</td> <td>15. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。</td> </tr> <tr> <td>8. 素材のテーマによる制作計画指導。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 授業への参加、制作、合評を通して総合的に評価する。</p>						1. コンピュータによるメディア表現の基本的技術の習得。	9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	10. ビデオカメラの撮影指導をおこなう。	3. プログラミングによるインタラクティブな表現への展開。	11. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	12. テーマに沿った絵コンテを作成し、撮影、制作をおこなう。	5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	13. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	6. 設備、機械等の使用のための基本的技術演習。	14. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。	7. 多様な素材、物質へのアプローチのための基礎演習。	15. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。	8. 素材のテーマによる制作計画指導。	
1. コンピュータによるメディア表現の基本的技術の習得。	9. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
2. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	10. ビデオカメラの撮影指導をおこなう。																				
3. プログラミングによるインタラクティブな表現への展開。	11. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
4. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。	12. テーマに沿った絵コンテを作成し、撮影、制作をおこなう。																				
5. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	13. 構想や制作への具体的な表現の指導をおこなう。																				
6. 設備、機械等の使用のための基本的技術演習。	14. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。																				
7. 多様な素材、物質へのアプローチのための基礎演習。	15. 撮影映像をデジタル編集してムービー作品を完成させる。																				
8. 素材のテーマによる制作計画指導。																					

教科 No.	1E03	授業科目	構想設計			単位数	週4日 6単位															
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○椎原保 ○長谷川潔 ○人長果月 ○前田剛志				開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎 16 単位修得者 (うち 8 単位以上は「構想設計 A・B」いずれかが望ましい)		履修学年・専攻等		2 年次																	
【授業目標】																						
二回生後期においては基礎過程での経験を継続的に発展させると共に、個々の学生の発想・興味・資質に応じた自由な表現方法を学生が主体となって実験的に作り上げる。自己の核を探る飛躍と模索の場とする。																						
【授業概要】																						
写真・ビデオ・映画・アニメーション・CG・インスタレーション・サウンドなど多様なメディアを使用した高度な表現を目指すと同時に、自己との接点を模索することで自己と世界を創造的に繋ぐ回路を作る。複数の素材・メディア・技法を超えた本質的な思考を他者へと発信する表現を試みる。																						
【授業概要】																						
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。</td> <td>9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。</td> <td>10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。</td> <td>11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。</td> <td>12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。</td> <td>13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> <td>14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> <td>15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> <td></td> </tr> </table>							1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	
1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。																					
4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																					
7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。																					
8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																						
【評価方法】																						
制作計画, 制作プロセス, 制作の結果およびゼミナルの内容を総合的に評価する。																						
【ゼミ】																						
<ul style="list-style-type: none"> ○「メディア」(砥綿正之担当) 自己と世界を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求し、多様なメディアを用いて新たな表現を試みる。 ○「構想」(高橋悟担当) 知覚・生命・環境・メディア・社会など「複数のシステム」を関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新しい概念の形成と幅広い視野で世界を捉える表現方法の可能性を追求する。世界と自己との接点を模索することでそれらを創造的に繋ぐ回路を作る。 ○「映像」(中井恒夫担当) 多様な映像ツールを表現メディアとして、世界とかわる独自の方法を考察し展開する。カメラ操作と撮影、現像、プリント作業のプロセスからイメージを発見し写真表現の可能性を探り、ビデオ、アニメーション、デジタルシネマ等による表現を試みる。 <p>注:「メディア」ゼミは後期休講の予定。</p>																						

教科 No.	1E04	授業科目	構想設計			単位数	週4日 6単位															
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○椎原保 ○長谷川潔 ○人長果月 ○前田剛志				開講学期	前期																
履修条件	美術科基礎 16 単位修得者 (うち 8 単位以上は「構想設計 A・B」いずれかが望ましい)		履修学年・専攻等		3 年次																	
【授業目標】																						
三回生前期においては人間の創造的活動とそれが生起する場である人間の経験一般を根本的に捉え直し、従来の芸術が関わってこなかった今日的な諸問題・諸領域に多様な手法でアプローチする。																						
【授業概要】																						
写真・ビデオ・映画・アニメーション・CG・インスタレーション・サウンドなど多様なメディアを使用した高度な表現を目指すと同時に、自己との接点を模索することで自己と世界を創造的に繋ぐ回路を作る。複数の素材・メディア・技法を超えた本質的な思考を他者へと発信する表現を試みる。																						
【授業概要】																						
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。</td> <td>9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。</td> <td>10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。</td> <td>11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。</td> <td>12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。</td> <td>13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> <td>14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> <td>15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> <td></td> </tr> </table>							1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。	8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	
1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。課題による表現演習をおこなう。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。																					
4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																					
6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																					
7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。																					
8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																						
【評価方法】																						
制作計画, 制作プロセス, 制作の結果およびゼミナルの内容を総合的に評価する。																						
【ゼミ】																						
<ul style="list-style-type: none"> ○「メディア」(砥綿正之担当) 自己と世界を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求し、多様なメディアを用いて新たな表現を試みる。 ○「構想」(高橋悟担当) 知覚・生命・環境・メディア・社会など「複数のシステム」を関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新しい概念の形成と幅広い視野で世界を捉える表現方法の可能性を追求する。世界と自己との接点を模索することでそれらを創造的に繋ぐ回路を作る。 ○「映像」(中井恒夫担当) 最新の映像ツールのできる表現の可能性を考察し、創造的な映像言語の拡充によりニューイメージの表現を展開する。写真、アニメーション、デジタルシネマ、CG などの映像メディアによる独自の映像芸術を確立する。拡張する映像表現の可能性を複合メディア等により研究する 																						

教科 No.	1E05	授業科目	構想設計	単位数	週4日 6単位
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○長谷川潔 ○長人果月 ○前田剛志			開講学期	後期
履修条件	美術科基礎 16 単位修得者 (うち 8 単位以上は「構想設計 A・B」いずれかが望ましい)		履修学年・専攻等	3 年次	
【授業目標】					
芸術や人間の活動に対する観念や制度を批判的に問い直し、異なる領域間に交通の回路を切り開くことを通じて、社会の既存の価値や関係を再配置する新たな現場を形成することを目指した研究・制作を行う。					
【授業概要】					
写真・ビデオ・映画・アニメーション・CG・インスタレーション・サウンドなど多様なメディアを使用した高度な表現を目指すと同時に、自己との接点を模索することで自己と世界を創造的に繋ぐ回路を作る。複数の素材・メディア・技法を超えた本質的な思考を他者へと発信する表現を試みる。					
【授業概要】					
1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。 2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。 3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。 4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。 5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。 6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。 8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。 9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。 12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。 15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。					
【評価方法】					
制作計画、制作プロセス、制作の結果およびゼミナルの内容を総合的に評価する。					
【ゼミ】					
○「メディア」(砥綿正之担当) 自己と世界を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求し、多様なメディアを用いて新たな表現を試みる。					
○「構想」(高橋悟担当) 知覚・生命・環境・メディア・社会など「複数のシステム」を関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新しい概念の形成と幅広い視野で世界を捉える表現方法の可能性を追求する。世界と自己との接点を模索することでそれらを創造的に繋ぐ回路を作る。					
○「映像」(中井恒夫担当) 最新の映像ツールにできる表現の可能性を考察し、創造的な映像言語の拡充によりニューイメージの表現を展開する。写真、アニメーション、デジタルシネマ、CG などの映像メディアによる独自の映像芸術を確立する。拡張する映像表現の可能性を複合メディア等により研究する					

教科 No.	1E06	授業科目	構想設計	単位数	週4日 6単位
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○長谷川潔 ○長人果月 ○前田剛志			開講学期	前期
履修条件	美術科基礎 16 単位修得者 (うち 8 単位以上は「構想設計 A・B」いずれかが望ましい)		履修学年・専攻等	4 年次	
【授業目標】					
芸術や人間の活動に対する観念や制度を批判的に問い直し、異なる領域間に交通の回路を切り開くことを通じて、社会の既存の価値や関係を再配置する新たな現場を形成することを目指した研究・制作を行う。					
【授業概要】					
写真・ビデオ・映画・アニメーション・CG・インスタレーション・サウンドなど多様なメディアを使用した高度な表現を目指すと同時に、自己との接点を模索することで自己と世界を創造的に繋ぐ回路を作る。複数の素材・メディア・技法を超えた本質的な思考を他者へと発信する表現を試みる。					
【授業概要】					
1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。 2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。 3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。 4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。 5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。 6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。 8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。 9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。 12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。 14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。 15. 制作の評価をゼミ形式でおこなう。					
【評価方法】					
制作計画、制作プロセス、制作の結果およびゼミナルの内容を総合的に評価する。					
【ゼミ】					
○「メディア」(砥綿正之担当) 自己と世界を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求し、多様なメディアを用いて新たな表現を試みる。					
○「構想」(高橋悟担当) 知覚・生命・環境・メディア・社会など「複数のシステム」を関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新しい概念の形成と幅広い視野で世界を捉える表現方法の可能性を追求する。世界と自己との接点を模索することでそれらを創造的に繋ぐ回路を作る。					
○「映像」(中井恒夫担当) 最新の映像ツールにできるニューイメージの発見と表現の可能性を思考や創造的な映像言語の拡充により展開する。写真、アニメーション、デジタルシネマ、CG などの映像メディアから独自なテーマによる表現制作を行う。複合メディア等による拡張する映像表現の可能性を考察し実験制作する。					

教科 No.	1E07	授業科目	構想設計	単位数	週4日 6単位																
担当教員	中井恒夫 砥綿正之 高橋悟 ○長谷川潔 ○人長果月 ○前田剛志			開講学期	後期																
履修条件	美術科基礎 16 単位修得者 (うち 8 単位以上は「構想設計 A・B」いずれかが望ましい)		履修学年・専攻等	4 年次																	
<p>【授業目標】 芸術や人間の活動に対する観念や制度を批判的に問い直し、異なる領域間に交通の回路を切り開くことを通じて、社会の既存の価値や関係を再配置する新たな現場を形成することを目指した研究・制作を行う。</p> <p>【授業概要】 写真・ビデオ・映画・アニメーション・CG・インスタレーション・サウンドなど多様なメディアを使用した高度な表現を目指すと同時に、自己との接点を模索することで自己と世界を創造的に繋ぐ回路を作る。複数の素材・メディア・技法を超えた本質的な思考を他者へと発信する表現を試みる。</p> <p>【授業概要】</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。</td> <td>9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。</td> <td>10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。</td> <td>11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。</td> <td>12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。</td> <td>13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> </tr> <tr> <td>6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。</td> <td>14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> </tr> <tr> <td>7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。</td> <td>15. 卒業制作の評価をゼミ形式でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。</td> <td></td> </tr> </table> <p>【評価方法】 制作計画、制作プロセス、制作の結果およびゼミナルの内容を総合的に評価する。</p> <p>【ゼミ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「メディア」(砥綿正之担当) 自己と世界を構成する基本的な要素とそれらの関係性を探ることで、特定の素材や芸術形式に捕らわれない自由な表現の可能性を追求し、多様なメディアを用いて新たな表現を試みる。 ○「構想」(高橋悟担当) 知覚・生命・環境・メディア・社会など「複数のシステム」を関係づける運動として創造的活動を捉えることで、新しい概念の形成と幅広い視野で世界を捉える表現方法の可能性を追求する。世界と自己との接点を模索することでそれらを創造的に繋ぐ回路を作る。 ○「映像」(中井恒夫担当) 最新の映像ツールにできるニューイメージの発見と表現の可能性を思考や創造的な映像言語の拡充により展開する。写真、アニメーション、デジタルシネマ、CG などの映像メディアから独自のテーマによる表現制作を行う。複合メディア等による拡張する映像表現の可能性を考察し実験制作する。 						1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 卒業制作の評価をゼミ形式でおこなう。	8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。	
1. 研究目的をもとに実験や制作のプランニングをおこなう。	9. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																				
2. 構想や表現方法のグループゼミナルをおこなう。	10. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																				
3. 新たな表現の展開を見出すための制作に入る。	11. 制作をもとにゼミナルをおこなう。																				
4. 制作の構想や表現のゼミナルを個別におこなう。	12. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																				
5. 制作の可能性と問題点の確認と検証をおこなう。	13. 構想や表現のゼミナルをおこなう。																				
6. 構想や表現のゼミナルをおこなう。	14. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																				
7. 制作をもとにゼミナルをおこなう。	15. 卒業制作の評価をゼミ形式でおこなう。																				
8. プレゼンテーションによる研究発表をおこなう。																					